

「この人 22」

山内 重昭 81歳 神奈川県

滑稽俳句協会のホームページに「滑稽を語る」という欄があります。このほど、山内さんに連載をお願いしました。

< 軽妙な筆致。書くことに手馴れておられる。 >

ハイ、昔とった杵柄です。広告会社に永く勤めて広告の文案をつくるのが仕事でしたから……。俳句に足を突っ込んだのは、角川の歳時記を通勤の電車で読破したことに始まりました。一方で、仕事の必需品・朝日新聞の縮刷版を自宅で購読していましたから月曜日の朝日俳壇を徹底的に読んだのです。体の中に俳句情報が蓄積されたのを実感しました。

< それでごく自然に俳句を始められた？ >

ええ、そうです。人に勧められて近所の句会に参加したりインターネットの句会に参加したりもしました。

< 滑稽観についてお話し下さい。 >

滑稽はごく自然に生まれてくるものだと思います。だから無理やり笑わせようとする句は、真の意味の滑稽とはいえませんね。滑稽俳句協会との出会いを含めて滑稽が私の生涯のテーマとなりそうです。